

新年のご挨拶



滋賀県遺族会長

松井 尚之

新年おめでとうございませす。旧年中は遺族会活動に對しまして格別のご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

英霊の孫・ひ孫に継いでいこう

昨年は台風18号により滋賀県も大きな被害がありました。災害が少なく県と安心しておりましたが、大津市、高島市、栗東市などの被災されました皆さんにお見舞い申し上げます。さて、戦後69年の歳月が

過ぎ去りましたが、今日の平和と繁栄は、戦争によって心ならずも命を落とされた方々の尊い犠牲と、戦後の国民のためまぬ努力の上に築かれています。私たち遺族の歩んだ道は筆舌に尽くしがたい歳月であり、互いに励まし、助け合い、懸命に生き抜いてまいりました。このことをひと時も忘れてはなりません。

しかし、私たち遺族も高齢化が進み、後継者問題が出てまいりました。日本遺族会では女性部が

中心となり真剣に議論をされ「英霊の孫、ひ孫に継いでいこう」と機関決定されました。滋賀県遺族会では現在まで約6万人の入館者を数え、これからも多くの子ども達が訪れるものと期待し、これらの機会をとらえて「英霊顕彰と恒久平和」への取り組みを継承していきたくと思っております。会員の皆さんには今後ともご支援ご協力をお願いいたします。



分科会の発表をする(右上から時計回りに)西川尚子さん、井ノ口征子さん、大西初枝さん、足田勝子さん

最後になりましたが、皆さんにとってこの一年が幸多き年でありますことをお祈りしてご挨拶とします。(広報 北田潤子)

滋賀県戦没者遺族大会で挨拶をする松井尚之 滋賀県遺族会長



「守るべき人がいる」と講演した「ひげの隊長」でおなじみの佐藤正久参議院議員

10月19日、滋賀県遺族会創立65周年記念・平成25年度滋賀県戦没者遺族大会が守山市民ホールで挙行された。嘉田由紀子滋賀県知事、宇賀武滋賀県議会議長、宮本和宏守山市長、森田次夫日本遺族会副会長の来賓を迎え、県下各地から約900人が参加した。(関連記事5面)

滋賀県戦没者遺族大会

語り継ごう次世代へ



発行所 一般財団法人滋賀県遺族会 滋賀県大津市におの浜4丁目2-34 滋賀県遺族会館 電話 (077)522-7227 FAX (077)522-7233 発行責任者 滋賀県遺族会長 松井 尚之

第一部では、開会のことは、国歌斉唱、英霊に対して黙祷、松井尚之の滋賀県遺族会長の挨拶に続き、戦没者遺族等に対する援護事業に貢献された方に知事表彰5人、滋賀県遺族会長表彰29人に授与され、被表彰者を代表して、野口邦彦さん(彦根市)から謝辞が述べられた。続いて嘉田滋賀県知事、宇賀滋賀県議会議長、森田日本遺族会副会長より祝辞をいただき、宮本守山市長からは歓迎のことばが述べられた。地元選出国會議員の上野賢一郎、武村展英、武藤賢也、三日月大造の各衆議院議員より祝辞をいただいた。

続いて、次世代戦跡訪問体験発表では、栗東市立金勝小学校6年の朝倉佳紀さんが「特攻隊の人々の思い」、立命館守山高3年の青木萌さんが「尊い命粗末にしない」と題して、また、東部ニューギニアの戦没者遺骨帰還団の一員として参加された彦根市の北川國男さんが、体験談を涙ながらに語られた。最後に山川芳志郎守山市遺族会長が大会宣言(案)、決議(案)を朗読、会場全員の拍手で承認された。第一部は終了した。

第二部は、守山市吹奏楽団に懐かしのメロデー等を演奏していただき、会場全員が口ずさみ、和やかな雰囲気になった。続いて、イラク戦争の「ひげの隊長」でおなじみの佐藤正久参議院議員が「自衛隊は国民を守る使命がある。東日本大震災の時、情報収集等のため被災地へ入った。しかし、隊員の中には肉親を亡くした者もいたが不安を隠し、涙を押し殺し作業に従事した。私

たちは守るべき人がいる。そして、果たすべき約束がある」と講演された。会場では、海外戦跡慰霊巡拝写真展と「太平洋を二度も渡った寄せ書きの丸」が展示され、参加者は一つ一つ熱心に見入っていた。

朝からの雨も上がり、本大会は成功裡に終了した。(総務委員長 林恵美子)

本遺族会女性代表) 10月7日、平成25年度滋賀県遺族会女性研修会が津市勤労福祉センターで開催された。県下各地から女性会員150余人と、松井尚之の滋賀県遺族会長はじめ県遺族会の男性役員25人がオブザーバーとして参加した。女性研修会は、遺族会の中心的な役割を担ってきた女性会員が高齢化の進む中、本会組織の要と認識するとともに、組織の継承や一層の充実化を図ることを目的として、県下各市町遺族会員を対象に研修するものである。

分科会終了後、各分科会が出た意見等の発表があり、全体会場のまとめとして岸田孝一滋賀県遺族会副会長が「英霊顕彰運動は無限である。戦没者遺児は高齢化して平均年齢73歳、お母さんは95歳、会員が減少しつつある。そこで、女性部が中心となって、また平和の尊さを正しく伝えて行く次世代へ継いでいけるよう、しっかりと活動し実行に移さねばならない」と要請した。最後に参加者全員で「靖國神社の歌」を斉唱し、研修会は終了した。(広報 北田潤子)

高齢化・会員減 真剣に取り組む

女性研修会 分科会で活発な意見交換

本遺族会女性代表) 10月7日、平成25年度滋賀県遺族会女性研修会が津市勤労福祉センターで開催された。県下各地から女性会員150余人と、松井尚之の滋賀県遺族会長はじめ県遺族会の男性役員25人がオブザーバーとして参加した。女性研修会は、遺族会の中心的な役割を担ってきた女性会員が高齢化の進む中、本会組織の要と認識するとともに、組織の継承や一層の充実化を図ることを目的として、県下各市町遺族会員を対象に研修するものである。

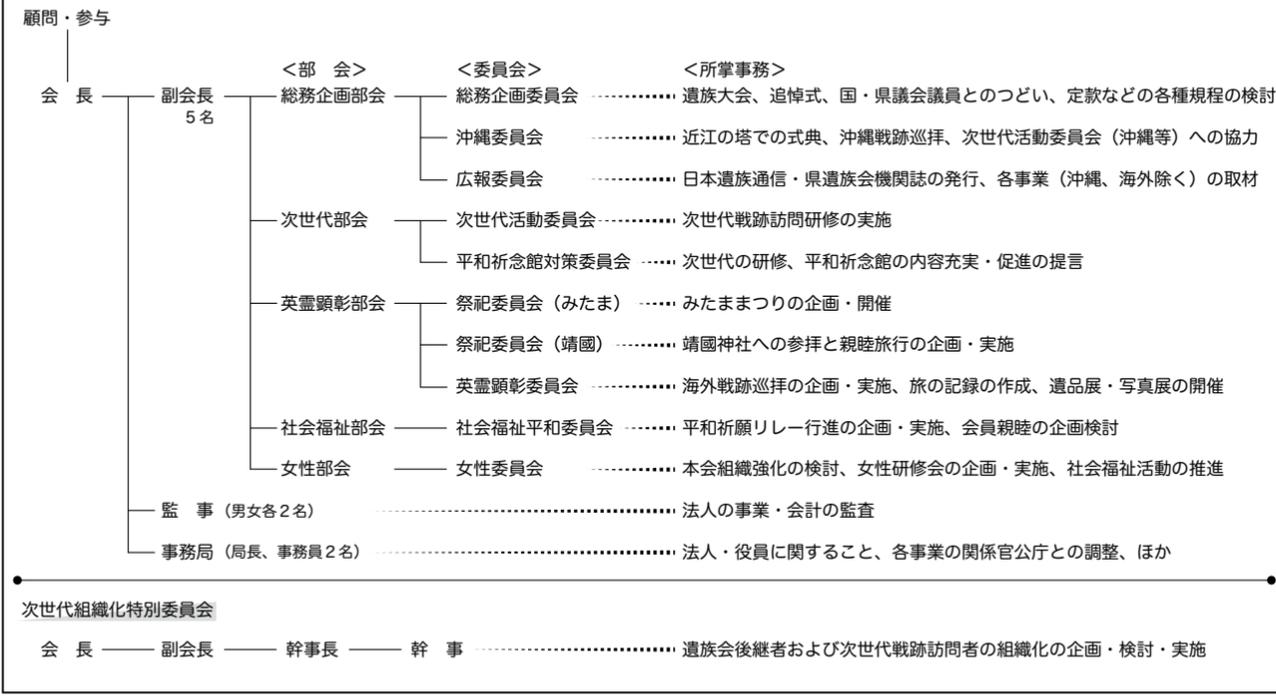
滋賀県遺族会組織改正(案)発表

平成25年8月、滋賀県護国神社で開催された第1回合同会議に続いて、第2回合同会議が12月7日(土)、大津市のアヤハレパークサイドホテルで開催された。合同会議は議題を審議し決議するもので、

は、滋賀県遺族会の理事、評議員、各市町遺族会長のほか各部会(総務・企画・英霊顕彰・社会福祉)委員が一同に会し、遺族会事業のスムーズな執行を目的として、連絡調整、意見交換するものであ

今回も滋賀県健康福祉部健康福祉政策課北村重治参事の出席をいただき、全国戦没者追悼式典への参列条件の緩和や高齢参列者の付き添い人参列可能など、滋賀県当局の取り扱

平成26年度～平成27年度 滋賀県遺族会 概略組織図(案)



平成24年12月に実施された衆議院議員選挙で滋賀県第1選挙区から第4選挙区までそれぞれ選挙区で当選された4人の国会議員(大岡敏孝議員、上野賢一郎議員、武村展英議員、武藤貴也議員)とともに、平成25年7月の参議院議員選挙で比例代表全国区3選目の有村治子議員、滋賀県選挙区初当選された二之湯武史議員も加わった「自由民主党滋賀県選出国會議員・滋賀県議

要望事項は最大限努力

滋賀県選出国會議員と滋賀県議會議員とのつどい

平成25年12月7日(土)アヤハレパークサイドホテルで行われた。前年度までは滋賀県遺族会の年間主要事業計画の一環として「県議會議員との懇談会」を掲げて実施してきたが、滋賀県選挙区で自民党議席の空白状況を解消して一カ年を経過し、立法院で活躍中の議員の皆さんと



「忌憚のない意見を述べよ」と挨拶する松井尚之滋賀県遺族会会長(アヤハレパークサイドホテル)

ーギニア・ミャンマー、靖国神社参拝旅行、次世代戦跡訪問研修(鹿児島・島・沖縄)などについて各担当委員長からの説明と協力

要請があり、松井尚之滋賀県遺族会会長や角野彰夫滋賀県遺族会事務局長から平成26年度に向けての課題や主要事業計画案などの説明を受けた。次期(平成26年度)は滋賀県遺族会の役員改選があり、遺族会法人格変更に伴う諸課題や反省事項、これからの組織の要となる次世代の育成、女性部の更なる活躍などを目指した組織を改正する旨の概略発表(別図参照)が行われた。平成26年度滋賀県遺族会主要事業(案)も提示された。定款



要望事項を発表する岸田孝一滋賀県遺族会副会長(左端)

に定められた都市遺族会会長会議の開催や日本遺族会第3ブロック会議が滋賀県当番となり、新たな事業が予定されている。これらは今後の理事会、評議員会で真剣な議論が行われ、最終決定の上、新年度体制と事業計画がスタートする。また、巨大台風30号の直撃を受けたフイリピンに対して、被災者への義援金を皆さんからはそれぞれの立場で要望事項に対する最大限の努力をしていただく旨の言葉をいただいた。

遺族会からの単なるお願い事項だけでは許されない。今回のつどいを通じて、遺族会の目的達成、すなわち「遺族の福祉救済や相互扶助の途を講ずることはもとより、21世紀に生きる若い世代が戦争の歴史に触れ、戦争の悲惨さや幾多の尊い犠牲のあったことを認識し、恒久平和

- (1) ☆県に対する要望
 - ① 海外戦跡慰霊巡拝・友好親善事業について
 - ② 次世代戦跡訪問研修事業について
 - ③ 滋賀県主催による滋賀県戦没者追悼式、沖縄「近江の塔」における戦没者追悼式並びに平和祈念式典の実
- (2) ☆国に対する要望
 - ① 総理、閣僚等の靖国神社参拝の推進と、国立の戦没者追悼施設新設構想の断固阻止について
 - ② 海外にある戦没者の遺品を早期に返還するとともに、遺品の売買を禁止する法律の制定について
 - ③ 戦没者遺族に対する弔慰金について

- ☆国に対する要望
 - (1) 総理、閣僚等の靖国神社参拝の推進と、国立の戦没者追悼施設新設構想の断固阻止について
 - (2) 海外にある戦没者の遺品を早期に返還するとともに、遺品の売買を禁止する法律の制定について
 - (3) 戦没者遺族に対する弔慰金について

- 「議員とのつどい」に出席されたみなさん(敬称略)
- 衆議院議員 大岡 敏孝
 - 衆議院議員 上野賢一郎
 - 衆議院議員 武村 展英
 - 衆議院議員 (代理出席) 武藤 貴也
 - 参議院議員 (代理出席) 有村 治子
 - 参議院議員 二之湯武史
 - 滋賀県議會議員
 - 三浦 治雄
 - 辻村 克
 - 家森 茂樹
 - 赤堀 義次
 - 佐野 高典
 - 石田 祐介
 - 西村 久子
 - 野田 藤雄
 - 奥村 芳正
 - 小寺 裕雄
 - 高木 健三
 - 宇野 佳司
 - 富田 博明
 - 山本 進一
 - 岩佐 弘明
 - 大野和 三郎
 - 佐藤 健司
 - (広報 田中正彦)

総理の靖國参拝実現

遺族会の思い 総理に通ず

昨年12月26日午前、安倍晋三内閣総理大臣の靖國神社参拝が実現した。靖國神社には、尾辻秀久日本遺族会会長（参議院議員）、森田次夫日本遺族会副会長、水落敏栄日本遺族会顧問（参議院議員）などが戦没者遺族を代表して安倍総理を迎えた。

参拝後、総理は「国のために戦い、尊い命を犠牲にされた英霊に対し、哀悼の誠を捧げるとともに、尊崇の念を表し、御霊やすらかなれとご冥福をお祈りした」「日本は二度

と戦争を起こしてはならない。同時に、二度と戦禍に苦しむことが無い時代をつくらなければならぬ。アジアや世界全体の平和と安定をひたすらに目指すことを誓った」と記者団

に述べていた。（NHKテレビニュース放映から）
滋賀県遺族会では「総理、閣僚等の靖國神社参拝の推進」をスローガンとして、毎年の県戦没者遺族大会や平和祈

念・県下戦没者追悼式、慰霊と平和祈願リレー行進、県下市町要望活動、国会議員・県議会議員との懇談会等々主要な事業の中で広く粘り強く訴えてきた。こうした諸々の活動が、今回の靖國参拝をさした安倍総理の心に通じたものと確信する。

今後は、毎年恒例の総理の靖國参拝となるよう「総理、閣僚等の靖國神社参拝の定着化」を、引き続き訴えていくことが求められる。（広報委員長 竹井昌夫）

滋賀県護國神社 秋季例大祭

祖国の繁栄と安泰を念じつつ

平成25年10月5日午前10時より、滋賀県護國神社の秋季例大祭が挙行された。前日の天気予報では、降水確率80%であったため、護國神社では雨仕様の会場設営がされていたが、案じられた降雨も早朝にお湿り程度の雨が降っただけだった。



伊勢神宮の式年遷宮の「遷御の儀」の体験を話す山本賢司宮司

すがすがしい空気が張り詰める中、県下各地から多くの戦没者遺族をはじめ、武藤貴也衆議院議員と本県選出の各国会議員の秘書、県議会議員、彦根市議会議員等々、多数の来賓

の参列があった。厳粛に進められた神事の最後に山本賢司宮司より、伊勢神宮の式年遷宮の「遷御の儀」に3千人の特別奉拝者の一人として招待された体験談があった。「10月2日の午後5時以降指定された席を立たぬよう説明があり、8時頃に明かりが落とされ松明の火だけが灯り、雅楽が流れる闇の中、衣擦れの音のみが聞こえ、絹で覆われた「御神体」と「宝物」が奉納された。この一連の神事が終えたのは午後9時。凜とした厳かな3時間半という長い神事ではあったが、決して長く感じなかった。古くか

護國神社巡拝のサイクリング

サイクリングを趣味の一つにして、私は、毎年一回は琵琶湖一周をして20年が過ぎた。これを記念して県下の忠魂碑などを全部自転車で行くことを考え、それを1年2ヶ月かけて211か所の参拝を終え、平成23年8月13日護國神社に完拝の報告をした。

75歳の後期高齢者に仲間入りした今、何か思い出になる事と始めたのが各県護國神社の自転車参拝である。先ずは平成23年9月13日滋賀県護國神社に参拝し、旅の安全と全部の参拝を祈願いただいた。その日は京都の霊山護國神社をめざし、陽の落ちる直前にやっと到着。神職が帰られた後だったが、参拝して朱印をいただき、「宮司と奉賛会長によるしく」と伝言をお願いして京都駅に向かった。駅前前で前輪を外してバ



自転車で行く全国の護國神社を巡拝する國松善次 滋賀県遺族会顧問

護國神社問題にも知恵と力を

滋賀県遺族会顧問 國松 善次

ツグに入れ電車で帰宅した。以来、毎月2日か3日は護國神社参拝のサイクリングだが、隣の岐阜県や奈良県に続いて近畿各府県を、さらに北陸、東海へと足を延ばした。旧東海道は国道1号線を箱根を越えて日本橋へ、流石に天下の剣の坂は喘ぎ喘ぎで自転車を押して歩いた。そして靖國神社に参拝後は関東の各県に。また、佐賀市でのマスターズ陸上選手権大会出場を機会に北九州の3県をなど、平成25年末までに24府県と26の護國神社に参拝することができた。

こうした護國神社の参拝は、行く先々で思わぬ体験や発見が待っていたりする。各府県には必ず護國神社があるが、神奈川県は唯一護國神社が無かった。建設直前に敗戦になったからだという。東京都の場合は勿

論、靖國神社がそれである。なお、県によつては兵庫県のように神戸と姫路とに二つあり、また岐阜県のよりに大垣、岐阜、飛騨と三つあるなど複数の護國神社がある県もある。護國神社の所在場所は殆どが県庁所在地である。それも多くが中城の中や歴史的に由緒のある所か、神が宿りそうな森の中などが選ばれている。

しかし、参拝者は靖國神社のよりに多くはないし、年齢層も若者や子どもは姿はあまり見当たらないのが実情である。それだけにかつてのように戦没者遺族や戦友会などのような戦争体験世代に頼るのでは限界があるため、各神社では様々な努力が重ねられていた。春と秋の大祭や戦争関係者による慰霊祭以外にも夏のみたま祭り、秋の七五三はもとより、5月のゴールデンウィークには鯉のぼりを境内に揚げたての男の子の節句や稚児行列、相撲大会、泣き相撲大会、音楽会などと子どもや若者を呼び込む行事が工夫されている。ところがその護國神社の所在が地図に載っていないか、道行く人に尋ねても知らないばかりか、奈良県では観光案内所の職員すら知らなかったり、石川県では近くの交番所の案内板にもお寺や神社が観光スポットとして掲載されながら護國神社が無かったりと、何ともやりきれない気持ちにさせられた。これでは英霊もさぞかし立腹ではなからうかと思う。

これは、現在社会が護國神社の存在を忘れていく証左でしかない。いや、その存在を知らないということでは教えないという意識が、いという悪循環の状態にあるということである。その意味で、今こそ次の世代に伝えてこなかったことを反省し、改めてその努力すべき時にある。云うまでもなく護國神社は我が

国のために、私たち日本人のために貴い命をかけて戦った郷土の先人たちの遺徳を顕彰し、伝える施設である。これこそ郷土の歴史施設であり、平和の原点でもある。その意味で護國神社こそ学校教育の中で教えられ、活かされねばならない施設である。

護國神社の近くにはお城や神社仏閣、さらには博物館や美術館など歴史や文化を伝える施設も多い。我々遺族も近くを旅した時には是非護國神社に参拝し、家族や友人などにその存在を伝える必要がある。幸い平成25年11月には「全国護國神社巡拝ガイドブック」が出版された。ともあれ私たち遺族は戦後70年を目前にして、機会をとらえ、地域の忠魂碑や慰霊碑とともに護國神社の問題にも知恵と力をしっかりと発揮しなければならぬ。このことなしに、我が国の真の発展も、人々の本当の幸せもないのではあるまいか。

フィリピン戦跡慰霊巡拝

超大型台風をまぬがれた戦跡慰霊巡拝

第33回フィリピン戦跡慰霊巡拝は富田博明滋賀県議会議員にご同行いただき、11月3日から9日にかけて2班に分かれ23人が参加しました。

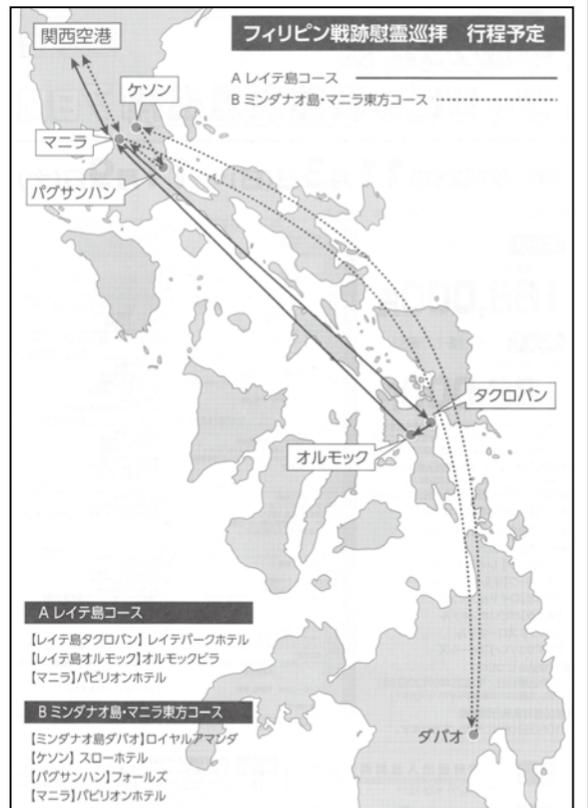
A班レイテ島は毎年のように巡拝していますが、他の島と併せて巡拝しているため2日間と短く、十分に巡拝できていない激戦地が沢山あり、今回はレイテ島だけの巡拝にして、サマール島、レイテ島東部、北部及び西部、北部の参加

者のおられない激戦地へも巡拝しました。

B班は平成17年以来8年ぶりに、ミンダナオ島に泊りして、ダバオを中心に巡拝、その後ルソン島サンマテオ、アンチポロ、ボソボソ方面の巡拝を行います。今回の巡拝では日比友好親善事業である学校訪問を、A班は小学校、B班は幼稚園へ訪問してボールペン等の学用品をプレゼントしました。

めでの風速90メートルと想像も出来ない大型台風がレイテ島に上陸、そのため予定していたカリラヤ日本慰霊園での合同慰霊祭を取りやめ、モンテンルパの慰霊公園で暴風雨の中、合同慰霊祭を挙行しました。帰国してからテレビや新聞の報道でレイテ島の被害を知り、もしレイテ班のマニラへの帰りが3、4

時間遅かったら、おそらく無事帰国できなかったのではないかと思います。最後になりましたが、壊滅的な被害に遭われ亡くな



感慨無量 慰霊の地で止まらぬ涙

甲良町選出の県遺族会の評議員として、平和委員会に所属させていただきながら、今年度甲良町の代表として、県のフィリピン戦跡慰霊巡拝に念願がかなわず参加させていただけました。(11月3日～9日)

以前から、一度は写真しか知らない父の眠るフィリピンの土地を訪問したいと思いつつ、今回縁があつて訪問することが出来ました。関空から出発し、4時間余りの機上の人となり現地の上空にさしかかった時、戦友から家族に伝えられていた、父が行方不明となった山麓は何処なのかと機上から伝言しました。

戦死の報告は「ルソン島マニラ市方面」ですが、どんな場所だったのだろうかと思いつつ、昭和47年にグアムから帰還された横井庄一さん、また、後にフィリピンのルバング島で発見された小野田寛郎さんのことが頭に浮かび、戦友から伝言されていた言葉が「行方不明」であることが脳裏から離れず、慰霊場所では大きな声で「お父さん」と呼ばずにはいられませんでした。もし生きていたら返事を



ルソン島でのサンマテオ慰霊祭

ようとしていた涙は止まりませんでした。どのような場所で最後の死を迎える寸前、食べ物のない山中で最後は野垂れ死に終わったのか、あるいは銃で撃たれたのかと独断と偏見で想像する中で、どんな思いで死を迎えたのかと頭が錯綜しました。

森田久隆

ミンダナオでの海上や、モンテンルパの収容所での戦跡慰霊巡拝では、歌手の渡辺ハマコさんが歌われた「モンテンルパの夜は更けて」の歌詞を浮かべ思わず胸が痛みました。収容所の方の思いをどのように察するか、若くして日本のために戦死していった方々を思う時、人が人を殺し合う無残な戦争、何の利益があるのか、命の尊厳を考えると、いられませんでした。

巡拝して、私の生き様を見てくれていた父の顔を汚したくないと思いました。豊かな日本から見れば、劣悪な環境で貧富の差が大きくまだまだ後進国のフィリピン。日本は法治国家で発展している中で改めて、日本としていかにして支援していくべきか、また実践していくべきか自問自答しなければならぬ心境になりました。

今回の戦跡慰霊巡拝に参加させていただいたことを、甲良町の遺族会の方々に「遠い戦地で眠っている英霊が待っています。是非とも戦跡慰霊巡拝をしていただきたい」旨を報告したいと思っています。(甲良町 上野正之)

後悔・うれしきと涙



レイテ島の慰霊祭で焼香する廣野恭子さん

父がレイテ島で戦死したということは母から聞いていましたが、あまり気にもせず年月が過ぎていきました。年齢を重ねるにしたがって遺影でしか心の中にいなかった父のことを意識するようになってきました。「父の眠るレイテ島とはどんな所か一度行ってみたい」と軽い気持ちで慰霊巡拝に同行させていただきました。

レイテ島に到着して最初に目にしたのは、椰子の葉で葺いた屋根やトタン屋根などバラック様の屋根でした。次に驚いたのは、車は多く走っていましたが、乗車している人が車の屋根の上まで盛りこみ状態だったことです。レンタカーのような車も多く見かけました。反対に豪華な高級車も走っていて貧富の差を痛感しました。

いざバスに乗ろうとすると、子どもたちが何か言いながら寄ってきて、物乞いをしているように見えました。貧しい国だとは思っていましたが、これほどとは思いませんでした。改めて日本の暮らしの豊かさを感じた次第です。

慰霊巡拝は開会の辞に始まり、フィリピンの国歌、日本の国歌、黙禱

ホテルに帰ってからカンギボット山での私の奇異な行動のことを人から聞きました。父が何かを私に囁きかけたのではないだろうか、それとも長い間誰かが来てくれることを待っていて下さったのではないだろうか、もし待っていて下さったのなら68年間は長い歳月だったのだろうかなどと、いろいろ考えているうちに分からなくなってしまう、涙が流れていたのです。今までご無沙汰していた後悔の涙と、見えない父に会えたうれし涙が混ざり合っていました。

レイテ島の話が出る度に涙が大量の涙になるのです。周囲の人とたわいもない話を話している時は笑顔でおられたのですが、ひとりになると涙が流れるのです。私と同じように父もさぞ多くの涙を流されたことでしょう。父の涙は無念さと悲しみの涙ではなかったかと思うと、私も涙が流れてくるのです。

父の涙を少しでも癒すことができるのなら、そして父が日本へ帰りたいのなら、私が父を負いぶして日本に帰ることに決めました。そして今は亡き母や兄が眠る故

語り継いでいく遺族会の役割は大きい

この度、滋賀県と滋賀県遺族会の皆さんのお陰で、初めて叔父の眠るフィリピンミンダナオ島の土を踏むことが出来ました。出発の前日、叔父のお墓にお参りし、明日フィリピンへ行くことを報告しました。晩秋の日本から真夏のミンダナオ島ダバオに着き、改めて身の引き締まる思いと感激で、胸がいっぱいになりました。

叔父は27歳という若さで戦死。二度の召集が無ければ結婚もされ、きっと子どもや孫の顔を見、幸せな老後を送られたであろうと思ふと無念でなりません。

叔父の戦死したキタオオオオが、この町から内陸部へ200km程離れている所にあることを知りました。また、ミンダナオ島は治安が悪いと聞いていましたが、ダバオ市は首都マニラ市よりも治安は良いとのことでした。カタルナンでの慰霊祭で叔父に呼びかけをさせていただき、長年の思いが達成できたことに感謝し、涙があふれて来ました。雨の中、ミニ三輪バイク(トライシルク)に乗って訪ね

た日本人歴史資料館で、戦前日本人がマニラ麻の生産で大成功し、それが大東亜戦争で全てを失ったこと、兵士ばかりか現地フィリピン人や民間人が多く戦死していたことを知り、不戦の誓いを新たにしました。

翌日、現地の幼稚園を訪問し、小さな子どもたちの元気な姿、きらきら光る瞳に幸せを祈らずにはいられません。最後のカリラヤ日本人慰霊庭園での合同慰霊祭は、台風30号の影響で中止になりましたが、代わりにモンテンパの日本人墓地で風雨の中慰霊祭が行われ、貴多僧侶のお経が今も耳に残ります。

ガイドのひで子さんから、当時の日本とフィリピン、アメリカの関係を聞き、なぜもっと早く戦争を終わらせることが出来なかったのか、フィリピンで犠牲になられた多くの日本兵や現地の方々、民間人そして叔父の最期の姿を思い浮かべるとき、戦争という名を借りた人間の愚かな行為に怒りがこみ上げて来ました。

戦争体験を知る人も少なくなり、今日この

の平和な日本の礎を築いて下さった方々のことを語り継いでいくという遺族会の役割は大きいものと思われまます。今回の慰霊の旅で戦前日本人がフィリピンダバオの地でマニラ麻の生産・販売で大成功されておられたこと、多くの民間人が戦争の犠牲になっていたこと等、機会がありましたら地域でも話をしていきたいと思っております。

最後になりましたが、実りある慰霊の旅が出来ましたことは、森田班長をはじめ、一緒に旅をしていただきました富田博明滋賀県議会議員、そして心温かい団員の皆さん、ガイドのひで子さん等、関係者の皆さんに感謝申し上げ戦跡慰霊巡拝の感想とさせていただきます。

(湖南市 山村 聡)

ミンダナオ島ダバオテイケアセンター幼稚園を訪問した一行



と続き、呼びかけ、読経、焼香、献花と厳かに行われ、最後に記念撮影で一日目が終わりました。そして二日目も無事に終わりました。

十分に慰霊できたかどうかは分かりませんが、帰国して次の日に故郷のお墓参りに行き無事に帰っていただいたことを報告しました。慰霊巡拝の旅をふりかえりますと、もしレイテ島からの帰国出発が半日でも遅れていたら台風災害に巻き込まれていたのではないかと思います。父が私たちを守って下さったのではないかとつくづく思う今日この頃です。

そして、台風で被災されたフィリピンの人々、中でも多くの思い出を残して下さったレイテ島の皆さんのご多幸を心からお祈りしています。最後になりましたが、今回一緒にさせて頂いた皆さまの方々に対し、貴重な体験をさせて頂いたこと、貴重な体験をさせて頂いたこと、ともに、滋賀県遺族会関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

(彦根市 廣野恭子)

さいごのなみ

最後まで気を許さぬ 裏方の奮闘

守山市遺族会 会長 山川芳志郎

滋賀県遺族会創立65周年記念・平成25年度滋賀県戦没者遺族大会が守山市民ホールで開催された。地元会長として感じたことを報告させていただきます。

まず、900人の会員が市民ホールに入られたが、ステージで見たいところ空席が見られた。これは、マックス1300席に900人とい

うことで、400人分空いたので仕方なかったのではないかと。

8月、「守山市平和のよろこび展」と共催で「帰ってきた日章旗展」を催したが、反響が大きかったので、再度ロビーで展示した。多くの会員が見入っておられたのが印象的だった。

第2部のアトラクションは守山市



場内を大いに盛り上げていただいた守山市民吹奏楽団の皆さん

民吹奏楽団(団長 水野正裕 団員40人)に依頼したところ、35人の団員からなる演奏を聴くことができた。守山市の会員や他都市の会員からは「難しい曲は要らない、懐メロを聴かせてほしい」との注文があったので、水野団長に伝えたところ、快く受けていただいた。「NHK連続テレビ小説あまちゃん」のテーマ曲を皮切りに、演歌の大御所 北島三郎のヒット曲の中から「函館の女」「与作」「北の漁場」などを演奏。希望の多かった「青い山脈」は団長自らプリントして下さり、1番から4番までみんなで合唱させてもらった。最後は「花は咲く」で締めくくっていたが、合計10曲演奏を聴くことができた。大いに盛り上がったアトラクションだった。

記念講演に参議院議員 佐藤正久氏をお迎えした。大変有名な方なので多忙は常だろうが、当日も伊丹空港から守山まで車で来るとのこと。しかも、時間は予定通り行っても65分くらいのこと。アトラクションと講演の間に待ち時間が出るのではないかと不安が出てきた。これが分かったのが2日前。アトラクションを延ばせないかとのことで、これまた水野団長に伝えたところ、「2曲くらい増やしてもせいぜい5〜6分、私のトークを入れてのばすしかないでしょう」とのこと。前日の吹奏楽団合同練習で急遽2曲増やしていただいた。

当日「今、大津インター通過」「今、栗東インターを出ました」「今、三宅の交差点です」と、次々ステージの袖にいる私のところに情報が入ってきたが、演奏そのものはどうしようもないので、こちらをチラ、チラと見る水野団長に手で合図してトークを少し長い目に取りってもらってしのいだ。ステージの様替えを入れてなんとか間を空けずに講演に移れたのでホッとしました。「守るべき人がいる」の演題のもと、流暢な語りぶりで、ついつい引き込まれ時間の経つのを忘れた。しかし、佐藤正久氏は次のステージのため質問の時間が取れなかったのは少々残念だった。

何はともあれ、天候良し、故障者なし、大いに盛り上がり、今大会は成功裡に終了したことは感謝したい。皆さん、ご苦労さまでした。お疲れ様でした。

忠魂碑の保全・管理について米原市に要望書を提出

米原市遺族会 会長 瀬戸川恒雄

米原市におきましては、「忠魂碑」が14カ所あります。いづれも大正時代に当時の村が建立しましたが、90年以上の月日が経ち、倒壊の危機にさらされて

「忠魂碑」があります。米原湯谷神社境内の児童公園に建立されている米原忠魂碑が傾斜しており、このまま放置すれば倒壊し危険な状況です。

また、伊吹小学校のグラウンド北にある伊吹忠魂碑の石垣が崩壊

この「忠魂碑」は戦没者慰霊を目的に、戦前の行政によって建立されましたが、終戦と同時にGHQの占領政策で政教分離

が実施される中で、当時の区長会に管理が委託されたこと聞き及んでおります。現在、区長会もそのかわりを放棄され、遺族会が清掃管理をしております。以上の経過から忠魂碑の維持管理は、もともとの建立者に帰すると考えております。遺族会も全く関わらないとは思っておりませんが、市当局と遺族会が協議し早急に改善策を立て、速やかな対応が求められております。このことは米原市民の平和への礎の前進につなげるものであり、市議会や市民に広く訴えて行きたいと思っております。

おかあさんを訪ねて

田中 ふみさん(長浜市)

戦争は人の人生を狂わせる



「自分」とは自分と、あき箱などを利用しての小道具作りをしたりと、まだまだお元気なふみさん。

「自分」とは自分と、あき箱などを利用しての小道具作りをしたりと、まだまだお元気なふみさん。

「自分」とは自分と、あき箱などを利用しての小道具作りをしたりと、まだまだお元気なふみさん。

「夫は通信局新聞局職員でした。一人息子であったため両親

「夫は通信局新聞局職員でした。一人息子であったため両親

「夫は通信局新聞局職員でした。一人息子であったため両親

福山 きみさん(甲賀市)

過ぎし戦争時代を想い浮かべて



若い男の人はみんな召集され、女の人は軍事情場に働きに行きました。

工場に働きに行きました。私の夫も祖母、両親、そして生まれ

当時、先祖さんが残された火鉢や床の間の置物等全て出してしましました。店に行ってもお

日中田畑で働いている時、B29が飛んで来た時は背中木に葉を付けて木の陰へ隠れ、夜は

今は子ども夫婦と孫やひ孫にも恵まれ、何不自由なく日々を暮らすことが出来ており、当時とはまさに天と地の違いで生活

お付き合いで世間が広がり、そのことが私を支えてくれました。今でも親しくお付き合いしている方がおられます。でも歳を重ねるごとにだんだん話し相手

「夫は通信局新聞局職員でした。一人息子であったため両親

してあります。そして神様、仏様に命のある限り自分のことが出来るよう手を合わせています。この年まで生きられるのも周りの方々のお陰と感謝しながらこれからも余生を過ごしたいと思っております。そして最後に、悲惨な戦争は二度とないよう願うばかりです。(本人寄稿)

富川 とし子さん(甲賀市)

一生懸命働き続けた母



私の母、とし子は現在96歳です。その過去の少し遡って書かせていただきます。

母は父と京都市上京区で豊業を営んでおりました。昭和19年春、召集令状が来て父は戦地(中国・中支)へ。そして昭和20年10月戦死の公報が入り、その後幼い子供2人と共に父の実家甲賀に帰ります。

父の両親と共に慣れない田畑を耕し、朝から夜まで働き、私たち娘2人を育ててくれました。私の結婚前には、古く汚い家も新築してくれて、今思えば本当にすごい母だなあと感じます。娘の私にはとても母の真似はできません。

その後も慣れない田畑の仕事ですっかり覚えて90歳近くまで頑張ってくれました。(父の両親)父の父は昭和20年12月没、父の母は昭和20年没)

今、母とし子は認知症で特別養護老人ホームのお世話になっております。父のことも娘のことも時々忘れませんが、元気でいて下さい。(甲賀市 富川千鶴子)

靖國参拝の短歌・俳句募集

(趣旨)

昭和50年2月の第1回靖國神社昇殿参拝旅行から数えて今回は第40回となり、滋賀県遺族会創立65周年第40回記念特別企画の靖國参拝となります。今年も県内各地から500人余の一同が昇殿参拝します。参拝者全員に進呈される記念切手シートや参拝記念しおりの旅行記録にも思いを馳せ、旅の思いを書き綴っていただくため、靖國参拝の短歌・俳句を募集します。

(課題)

「靖國参拝の旅」に限定

(応募用紙)

参拝往路新幹線の車中で配布する参加者名簿冊子に挟んで、参拝者全員に渡します。応募者は、応募用紙を切り取ったうえ、郵送またはFAXで応募

(応募数)

短歌2作品、俳句2作品まで

(応募作品送付先)

滋賀県遺族会事務局気付 広報委員会宛

郵送またはFAX送信

(締め切り日)

平成26年3月末日

(発表)

機関誌「遺族の友」第245号(平成26年6月)発行に掲載します

(選者)

前年度に引き続き委託します

短歌選者：母坪みち代氏

俳句選者：奥野きぬ氏

(前仰木の里学区老人クラブ連合会長) (大津市遺族連合会員)

総務部会広報委員会

お詫びと訂正

平成25年10月31日発行の第243号(前号)「遺族の願い」要望書にこめて第32回慰霊と平和祈願「行進」の記事で、お名前前の誤りがありました。おわびして訂正いたします。

- (正) 滋賀県知事代理 那須安徳健康福祉部長
(誤) 滋賀県知事代理 那須安徳健康福祉部長
(正) 大津市議会議員 黄野瀬明子
(誤) 大津市議会議員 貴野瀬明

奮って応募してください

平和祈念館に対するアンケートのまとめ

平和祈念館が開館して早いもので1年半を超えた。当委員会では1年を経過した平成25年春、アンケートをとりいろいろな意見を聞いた。今後の発展に資していただければと思っている。

まず、足。正直言って遠く便が少ない。車の社会と言われ懸念は少ないようであるが、誰もが気軽に歩いて出かけるようにならないのか。意見の中に「1回来たら良い」では淋しい。印象では、2万余点ある収蔵のうちで展示されている点数が少ない。期待外れと酷評もある。外観。シンボルが欲しい。「ここがそうか」では、館内は、明るすぎる。戦時体験者は、あの時代の暗いイメージがあり、今日がある。訴えるものがすくない、と。「ひろびろとして良い」の意見は最高の皮肉と受け止める。展示替えは行われているようであるが、PRもなく、広い場の一部でなく、特別展示の場合は、分けて説明が欲しいとの意見がある。「平和の燈」については、入館者の最初に目に入るものである。説明がわからない。

展示場に説明があるが総体的に細かく要点が乏しい。
次世代の活用について、近隣の小中学校の利用はあるが全体的には疎らである。全体的には例えば「湖の子」のように定型づけられればどうか、の意見もある。わざとすると費用負担の点を問題にされているようだが、この地は、南極観測を勉強する場、史跡、自然と、校外学習の豊富な地で併用活用を。遺族会からの要望として、慰霊の場が欲しい。「平和」を言う前に、その礎があったこと、それに感謝、尊崇の誠を捧げることは当然である。「改善」それは発展を意味する。今後ほかに類を見ない平和学習の発信地と期待する。

平和祈念館対策委員長 杉江周作

展示方法・内容について良かった点

- ・最初の展示としては良かった。分かりやすかった。
- ・戦争当時の国、内外のことを学ぶことが出来た。また、一緒に訪れた次世代の子にもその実態を体感させられた。
- ・戦争当時の四畳半の家庭状況を思い出すことが出来た。

展示について反省すべき点

- ・展示品が少なく、空間が多い。時間を持て余す。再度訪問する気持ちは弱かった。他の団体や個人に訪問を強く勧める気持ちにはなれなかった。
- ・戦争の悲惨さを表現・展示したものが乏しく、心に響くものがない。
- ・他の地方の資料館に比して見劣りする。今の展示ではもう一度行こうという気にはなれない。見学して心に訴える展示の仕方が必要である。
- ・見応えがない。つまらないと思った。ついでに寄って見て下さい程度である。

【要望意見】

シンボルの展示

- ・館外にシンボルの展示が出来ないか。(掩体壕を造り、山田氏寄贈の飛行機を格納する)
- ・見学者が戦没者を慰霊のため手を合わせられるシンボルが必要。(英霊塔・兵士の像・観音像等)

意構造・備品

- ・床の地図が目立ちすぎる。(このスペースは他の展示スペースとパネルで仕切るべき)
- ・展示資料の説明文章が小さく、また、多いので読むのが大変。素通りされると、心に訴えるものがない。展示説明の文字をもっと大きく。
- ・館のガイドンスビデオも、いつも同じものでなく、テ-

マを分けてボタンで選べるようにし、もう少し時間が長くても良いのでは。

- ・資料の説明文章より、見て分かるよう写真を多くすべき。
- ・第二次大戦のみでなく、北方戦線の資料展示もほしい。

二階を活用

- ・二階を利用して、戦没者の遺書・携行品・勲章・従軍記章・手紙等の常設展示のコーナーを設けてほしい。
- ・戦没兵士の個人史として、写真・遺品・履歴等をパネルにして1ヶ月単位で何人かずつ展示すればどうか。これらにより、若くして散って行った人たちのことをもっと知らしめてほしい。
- ・これらは常設展示として、「陳列棚による展示」として、二階の部屋に展示し静かに見られるようにしてほしい。

常設展示と企画展示

- ・常設展示は入口(地図のコーナー)と二階とし、一階は企画展示として年4回程度に入れ替えとして展示。
- ・今までの企画展示は入れ替えれば以前のものは何も残っていない、夫々の企画展示はDVD等で記録してライブラリーとして残しておき、いつでも閲覧できるようにすべき。

戦後の生活

- ・戦時中の生活用品・農具等の展示。
- ・戦時中の子どもの様子を示すもの。(絵日記・ノート・教科書等)
- ・当時の生活がしのばれるもの。(古いレコード等)

展示説明

- ・館職員の説明は、若い人であったためか遺族には胸に迫るものがなかった。当時から多量なりとも知るボランティアの説明はよかった。今後このような方の説明を

お願いしたい。

ボランティアの他に戦争体験者・お母さん等の語り部を招き、貴重な体験を後世に残すようにしてほしい。

映像他媒体での勉強

- ・海外遺骨収集・海外戦跡慰霊訪問の写真パネルの展示。
- ・太平洋戦争・特攻隊等のビデオ視聴会の企画。
- ・戦争体験者の声・映像の収集と視聴会の企画。

出前展示・出前講座

- ・今も出前講座を行っておられると聞く。積極的にやってほしい。

次世代へ

- ・教育委員会や行政に働きかけ、小・中学校の平和学習のカリキュラムに組み入れ、見学研修を課外授業の場となるようなシステムを考えるべき。
- ・小・中学校への出前講座により、学生・教職員への認識の充実を図ってほしい。

歴史勉強

- ・日清・日露太平洋戦争に至る(近代史)背景の詳しい解説展示を史実に基づきリアルに展示する。
- ・人権を無視した戦争のむごさ、残酷さをただの展示ではなく、現実的に悲惨さを訴えるような展示はできないか。
- ・各戦争毎の戦死者の地域別人数を地図上に表示し、どれだけの人が、どこで亡くなったかということ伝えるような展示も必要。
- ・戦後、外地から帰還した人の体験記の展示。

展示内容等のPR

- ・県・市・町といった行政の広報紙や市町教育委員会によるPRを望む。
- ・戦争の概要、滋賀県人の犠牲状況等の説明展示や遺品の展示を増やしてほしい。
- ・戦記等の貴重な個人所有の資料、書籍等を引き取ってもらえるシステムの構築。(所有者の高齢化により資料等の分散、亡失を防ぐ上から)
- ・県内4ブロック地域別の資料展示も考えてほしい。

遺品の再提出

- ・手紙等はまだまだ家庭に残っている。今の内ならもつと遺品もあるので再提出を行ってほしい。
- ・遺品等の展示をもっと多くして頂きたい。今のままで入場者の減少は目に見えている。

他の祈念館等を参考に

- ・他府県の平和祈念館、類似施設の研修を行って、展示の参考とすることも必要と考える。

・全国的視野で大都市空襲、原爆、特攻隊、沖縄戦が学べる。靖国神社「遊就館」を参考にしたい。

・国内の同様施設とタイアップして、展示品の貸借等を考えられないか。

現在の世界

- ・現在の世界情勢から各国の平和への努力状況。
- ・現在世界で起こっている戦争、内戦、テロ等の紹介とそれにより難を強いられている国民や子どもたちの悲惨な現状のパネル展示がほしい。
- ・現在の世界状況、報道写真。(中東・アフリカ・南米等)

訴える

- ・戦争の悲惨さ、平和の大切さを意識づけるものの展示が必要。
- ・子どもたちに感激を与える映画会等も企画しては。(二十四の瞳・雲流れる果てに・人間の条件等)
- ・遺族会が永年念願してきた想いとギャップが大きすぎる。当時の真実に目を向け、国の犠牲者の想いを深く理解して欲しい。

慰霊

- ・父の最後の手紙の展示。遺書の展示。(他府県の平和祈念館展示例)
- ・戦没者の遺影保存、展示は出来ないものか。
- ・遺品以外に英霊の言葉を月毎に拡大して紹介することは出来ないか。

その他

- ・国道の「平和祈念館」の看板を大きくして、来場者の入りやすいようにしてほしい。
- ・交通の便を何とかならないか。公共交通のバスの回数が少なく、タクシイは高くつき、行きにくい。
- ・食事が出来るようにならないか。
- ・来館者に意見、感想を記入してもらうよう、ノートの備え付け。
- ・展示内容と説明に誤りがないように。(東レ被爆日時説明の誤り等が見受けられる)
- ・県立の施設として適正か。県議会の考えはどうなのか。質問してみたい。

遺族会へ

- ・平和祈念館で年に2回程度会員が集まる事業を考えて欲しい。
- ・女性研修会を平和祈念館の二階での開催を考えては。
- ・この祈念館は遺族会が一生懸命頑張ってきた出来あがりものであるが、現状では遺族会の関与が無いに等しい。二階の部屋にクモの巣を張らさないように、会員の素晴らしい知識、豊富な経験を発揮し、後世に正しい歴史を伝えてゆかねばならない。
- ・「遺族の友」に平和祈念館の展示PRを。
- ・ご協力ありがとうございました。